

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立鶴山小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 学習・生活集団力を高め、学び認め合う心豊かな子どもの育成
- 考える子
(創造性豊かに考える子)
 - 助け合う子
(相手を尊重し助け合う子)
 - やりぬく子
(最後までやりぬく子)

今年度の指導の重点

- ～特別支援教育の考え方を基盤にして～
- 1 確かな学力の育成を図る。
 - 2 人権感覚豊かな人間関係づくりを推進する。
 - 基礎的な学力の向上に努める。
 - 集団生活のルールやマナーを身につけ、安心感のある学校生活を推進する。
 - 表現力を高め、学びあう力の育成に努める。
 - いじめ等の不合理的に気づき、違いを認め合い、ともに解決しようとする子どもを育てる。
 - 3 特別支援教育の充実を図る。
 - 4 連携を進める。
 - 居場所としての学級・交流学級をつくる。
 - 保・幼・小の滑らかな接続を目指す
 - 中学校ブロックで学力向上や生徒指導等に取り組む。
 - ふるさと教育を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- ・国語ABとも全国や県の平均正答率を下回っている。
- ・算数ABとも全国や県の平均正答率を上回っている。
- ・無回答率がほぼ全問全国や県の無回答率を下回っており、意欲的に取組んでいる。

【学習状況調査の結果】

- ・授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っている。
- ・メディア等の時間が全国や県の平均よりも少ない。
- ・平日の学習時間が全国や県に比べて多いが、土日の学習時間は少ない。
- ・新聞をよく読んでいる児童が多い。
- ・地域の行事に参加している児童が多い。
- ・読書好きな児童が県に比べて少ない。

成果と課題

- 国語
- ・漢字については読みはおおむね全国並みかそれ以上である。
 - ・ローマ字の促音の表記の仕方、「ん」の表記の仕方、拗音の読み方などに課題がある。
 - ・書写において用紙全体との関係に注意したり、文字の大きさや配列などを決めたりすることに課題がある。
 - ・すべての領域について、課題があるがその中でも「書くこと」について大きな課題がある。
 - ・問題文を読むだけで精一杯で問題の意味理解ができず読み取るところまでいかない。
- 算数
- ・底辺と高さの関係について理解できていない児童が多い。
 - ・割合についてその意味ができておらず、もとにする量や比べられる量について正しく理解できていない。
 - ・グラフや表の見方に課題があり、問題文と関連付けて理解することが難しい。
 - ・多くの文章から必要な情報を選択し課題を解決する力に課題がある。
- 学習状況調査
- ・岡山型学習指導のスタンダードや鶴山小独自の授業スタイルが定着し授業後半のまとめや振り返りが定着しつつある。
 - ・中学校区における定期考査中のノーメディアや家庭学習の促進の取組の効果が現れ、メディアの時間が減少してきている。
 - ・キャリア教育や5年生時の総合学習の取組により地域のことに関心を持ち、地域行事に参加している児童が多い。
 - ・読書好きな児童が県に比べて少ない。
 - ・土日の学習時間は少ない。

課題に対応した改善方法

- 国語
- ・普段からローマ字表記に触れる機会を増やす。たとえば、記名をローマ字で書く、ローマ字で文を書く(読む)などを行う。
 - ・書写の指導に限らず、文字の大きさや配列などを気をつけ文字や文章を書く習慣をつける。
 - ・漢字については引き続き家庭学習等で定着を図り、ミニテスト等で確認をする。また、以前に習った漢字について振り返って書き取りをするなどして定着を計る。
 - ・普段の授業において、自分の考えを書くことやまとめを自分自身で行うなどし、書くことになれる。
 - ・国語科に限らず、自分の考えを説明したり、解決方法を話し合ったりして他者との交流の時間を確保し話す聞く能力を高める。(アクティブラーニングの活用)
- 算数
- ・適応問題や過去問題等でさまざまな問題に触れることで、底辺と高さの関係や垂直と平行との関係とを正しく理解する。
 - ・問題データベースを活用し朝学習や放課後補充学習(パワーアップタイム)で基礎的基本的な力の定着を図る。
 - ・割合については「もとにする量」「比べられる量」「割合」の関係が正しく理解できるようにカードで示したり、線分図や関係図で表したりしながら定着を図る。
 - ・算数科に限らず、問題文やグラフ、表などの情報から正しく読み取り、それらから分かることを見つけたり、話し合ったりする時間を確保する。(アクティブラーニングの活用)
- 学習状況調査
- ・ノーメディアや家庭学習促進週間の取組の際には、児童の学習環境を整えたり、読書など家族そろっての取組の協力を依頼する。
 - ・学年や学級懇談の時に、県教育委員会作成の資料を活用し家庭学習について説明したり協力依頼を行う。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- ・5年生に今年度の全国学力調査問題を実施する。(10月)
- ・6年生に今年度の岡山県学力調査を実施する。(2月)
- ・家庭学習について懇談等で保護者に説明したり、児童によい例を紹介したりして、土日の学習時間を増やす。
- ・引き続き中学校区で行うノーメディアや家庭学習促進の取組を行う。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- ・5年生も6年生も平均正答率を県平均を上回る。
- ・家庭学習平日1時間以上、土日2時間以上の割合を上げる。(高学年で土日の学習時間2時間以上2割)